




橘色ホニテ彼女との
えっちちな生活



今日も退屈な学園生活が終わった。
俺は後は帰宅するだけだ。俺は昇降口で
いつも一緒に帰っているアイツを待っていた。



「おーっす、今日も
学校お疲れ様！一緒に帰ろ！」
「ああ、お疲れ」



こいつは俺の彼女
付き合い始めて二年になる

付き合いまで色々あったのだが
今はカップルってやつをやっている

まあ……その事は
いつか語る事もあるだろう

A red-haired anime girl with a ponytail, wearing a light blue school uniform shirt and a dark skirt, stands in a locker room. She has a slightly smug or confident expression. The background consists of rows of wooden lockers under fluorescent lights.

こいつはおしとやかな
女の子ってわけじゃないが

明るく元気で

気兼ねなく軽口を叩きあえる

そういうところが魅力的な奴だ

口に出して言う事はないが、俺は

そういう気安い感じがとても好きだ



「なにに冴えない顔してんのもっと笑顔でいないと幸せが逃げるよ？」

「うっせ。早く帰ろっせ」



今日クラスであった事
他愛ない事を離しながら帰路につく
学友がまたバカやっただとか
そんな他愛ない事を離しながら
彼女と一緒にこうやった時間を
過ごすのも悪くない。

「あはっ、何それ！
相変わらずアイツ馬鹿だなあ」





「え、なんで？」

「とごころでさ、今日……暇？
暇だったらさ、あんたの家
行ってもいい？」

「なんでって……
言わなくてもわかるでしょ？」
女の子のあたしに
そんな事言わせる気？」

「まあ大歓迎なんだけどもさ
都合よく女の子とか言っちゃって」

「私はいつでも女の子だったの！
とにかく今日はアンタン家行くから」



「わかった。
じゃあ、このまま来いよ
どうせ親もいないし」

「アンタのご両親
今日もいないんでしょ？
実質一人暮らしみたいなのんだよね
漫画とか小説の主人公みたい！」





……まあ、そういう事だ。
付き合って一年ともなれば
もうそれなりに経験はしているわけで
俺達はまだまだ性欲旺盛な若者
もうとにかく盛りまくっているのだ



いつもは元気な奴だが
こういう時は少ししおらしくなる
そういうところも可愛い



「いや、可愛いなと思って」

「なに、なんか顔についてる？」

「……………えへへ♥」

ドキ

ドキ





「れる、ん……んちゅ、っ♡
はあ、はあ……♡」

「ちゅ、ちゅ……っ……」



「うん。でも……..
キスだけでいいのか？」

はー！……♡

「はあ、はあ……っ
キス、きもちいい……♡」

「んー、もっと、気持ちいい事
しよう……っ？」



「あー……………
良い揉み心地だ。至福だ」

「んっ、そう？
あまり、大きくないから
あ…………っ♡」



「そんなことないぞ
これくらいで充分充分」

「そうかな、んっ、あ……
きもち、いい……」



ちゅーちゅー

ちゅーちゅー

ちゅーちゅー

あーん

ひやあーん

ちゅーちゅー

ちゅーちゅー

あーん

「ひやうう……っ♡吸っちや
やだあ……♡何も出ないってば……」
「あああつ、そんなっ♡
ちゅーちゅーって……っ♡」



「うん、やっぱりでないよね」

「はあ、はあ……っ……っ♡
もう、バカ……っ……♡」

「……もう、っ……っ」

「うん……」

はっ

はっ

はっ

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん



「あーすっげえきもちいい
相変わらずぎちぎちに締まる……」

「ちが、あんたのが
おつきいんでしょ♡
んっ♡あ、あんっ♡」

んっ♡

セーッ

おんっ



「んっ♡んっ♡あぁっ……
きもち、いいよお……♡」

「はぁっはぁっ」

「もっ♡、突いてっ♡」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



「あー、出そうっ、もう出してもいいかっ」

「うんっ♥いいよ、だして♥
膣内につ♥いっぱい出してっ♥」

あー♥

あー♥

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ





「はあ、はあ……
はああ……あー……」

はあ……

はあ……

はあ……

はあ……

はあ……



はー！

ギョー

ギョー

はー！

「ちゅい」

「まだ、元気だ………
相変わらず、絶倫よね♥」



「気持ちよくしてくれた
お礼、しなきゃ……ちゅっ」

ちゅっ



「ペろ、ペろ……
エツちな味……♡」

「すまん、これ以上されたら
また出ちまう……
顔に、かかるから……」

「んー、いいよ……♡
いっぱい、かけて……」

アロロ♡

はい

はい

アロロ♡

アロロ♡





はー！……♡

「……ふふ、いっぱい出た……♡
すごいね……こんなに何度も」

「育ち盛りだからな……」

「何言ってるんだか、ふふ……」

はー！……♡

ドロ……

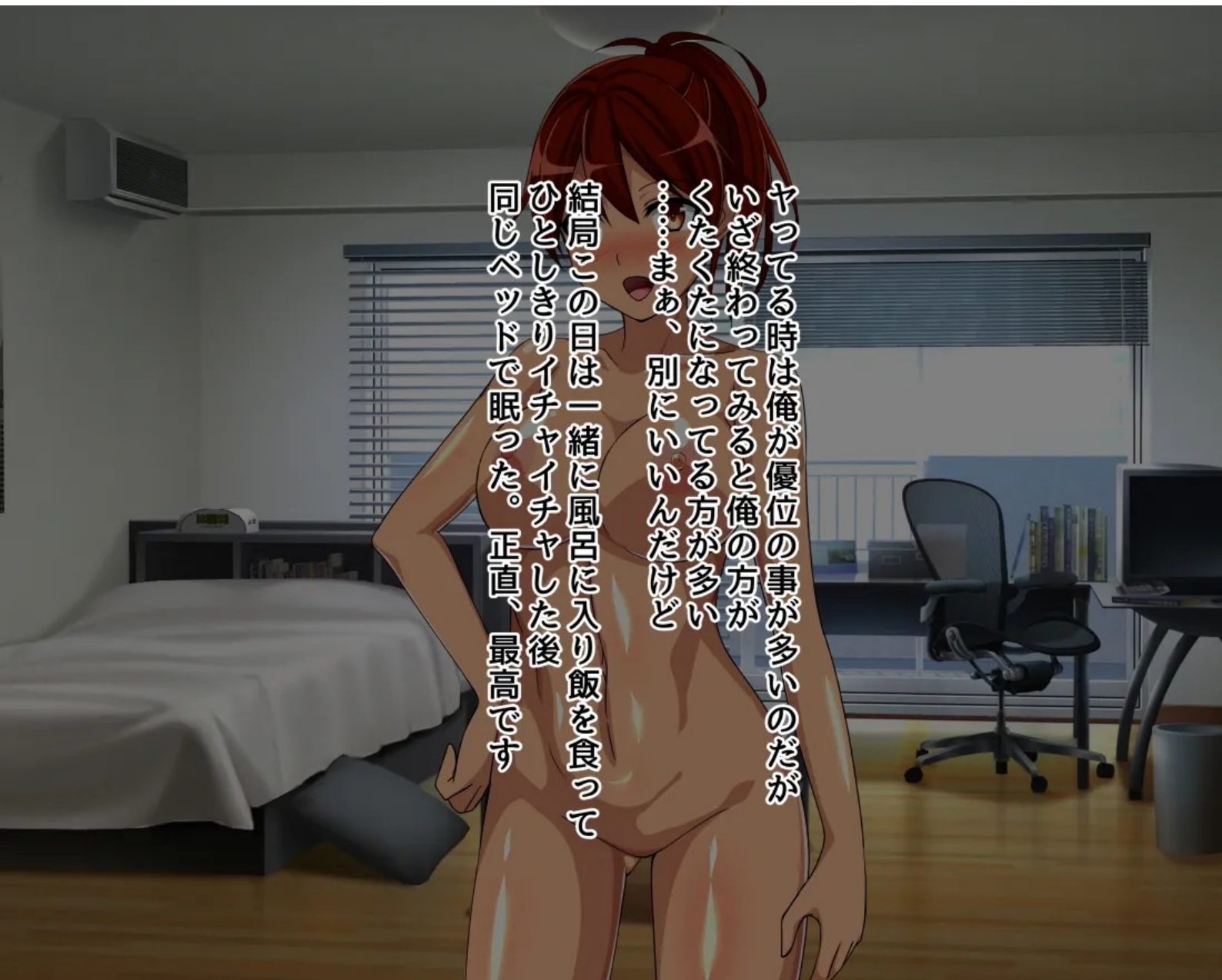


「お、おう……っつか
元気だなお前……」

「あーきもちよかつた!じや
お風呂入ってご飯食べよう!」

やっつてる時は俺が優位の事が多いのだが
いざ終わってみると俺の方が
くたくたになってる方が多い
……まあ、別にいいんだけど

結局この日は一緒に風呂に入り飯を食って
ひとしきりイチャイチャした後
同じベッドで眠った。正直、最高です



そして、数日後のとある日

「今日はちよつと着てほしい
服があるんだけど」

「え？なに？どういう事？
コスプレしてエッチするの？」

「まあそういう感じだな
じゃあこれ」

「まあ、いいけど……」





「お、おお……!」

「これでいい……? 恥ずかしいんだけど……!」



「……おめ……おめ……」

「……う……う……」

ガ

バ



「や、いきなりはダメだって
こら、おちつけ……っ♡」

「むりー！」

「あんっ、そこいじったら
……っダメだっつてっ
ん、んんうっつっ♡」





「あ、ダメ、ダメっ……
きちやう……っ♡
もう、ばかあっ♡」

あ、ダメ

ダメ

あ、ダメ

くちゅ

くちゅ

くちゅ





はあ

はあ

ゴクッ

ゴクッ

ゴクッ

ゴクッ

ゴクッ

「はあ、はあ……っはあ……っばか、このお……っ♡♡」

「……………あ、すまん」

「全く、暴走しすぎだったの
こうしてやる、反省しろっ」

「いででで！ごめんなさい！
反省します反省します！」

「よろしい」

ギョッ





「……うん」

「へろ……へろ……」



「どうっ?..れろ...、ちゅぽ♡」

「きもちいいす.....」



「はむ……んん……
おっひい……ちゅぷ♥」

「あぁっ……口の中
あつたけー……」

「んふふ、びくびくしてる……♥」

ぽ
ん
ん
ん

「きもち……あーだめだ
そろそろ出ちゃうわ」

「ん、ひよーがないなあ……
□の中に出していいよ……」

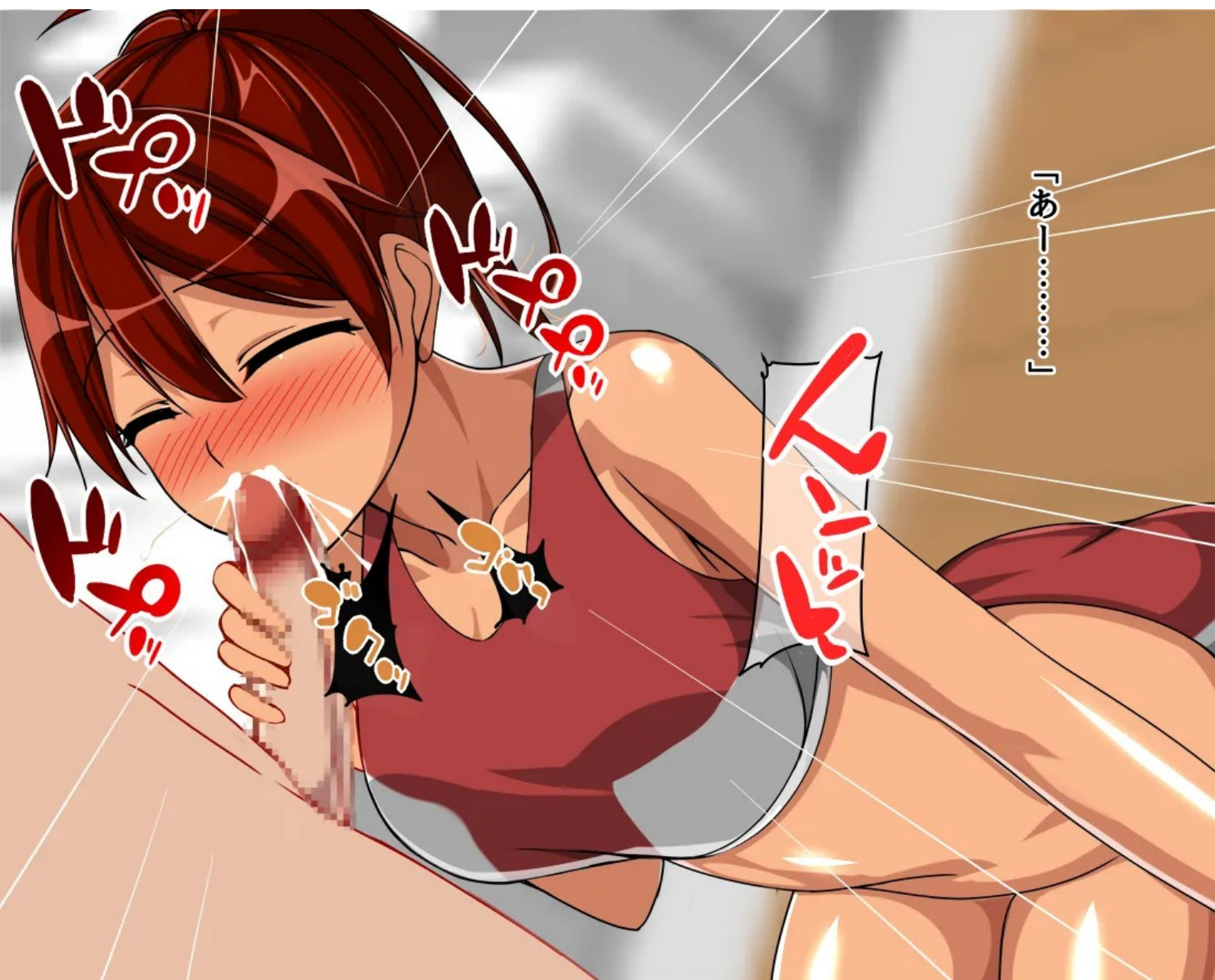
「う、もう……出す……っ」

ちゅぽ、ちゅぽ

ちゅぽ、ちゅぽ

ちゅぽ、ちゅぽ





【……あ】



「う…っつ…めっちや出た」

「出しすぎ…♥」



「ん、ふろろろろろろろろろろ
はいつて、きたあ……っ♡」

ん
っ♡



「ん、ん……んっ♡んっ♡
あ、ああ……っ♡きもち、いいっ♡」

「そっちからも、腰動かしてくれよ」

「そうしたいけど
カ入んないっ♡」

ヌグッ

ヌグッ

ヌグッ

ヌグッ

「はあ、はあっ、そんなにっ、
感じてもらえるとはっ
光栄っすね……っ」

「うんっアタシの、おマンコの中♡
ごりゅごりゅっごすって♡
すっごく気持ちいいっ♡」

「はあ、はあ……っ
やっぱお前の中
さいっごう……っ」

「アタシも、いいよっ♡
いいよっ……♡
もっど、突いてっ♡」

ずっ
ちゅ

ずっ
ちゅ

ずっ
ちゅ



「もう、イつく……っ
いいか……？」

「うんっ、うんっ♡
いいよ、出して♡
膣内につっぱいだしてえ♡」

ほんっ

ほんっ

ほんっ

ほんっ







「はあ、はあー……はあ
あ、うう……んっ♡
いっぱい出てる……っ♡」

はー…♡

はー…♡

どきん

びしょ

びしょ



「はあ……♡はあ……♡
まだ、するの……?」

「だめか?あと一回だけ」



ガマンマンマン

ギィ
ギィ

「ま、まだビキビキ……
もう、あと一回だけだからね……
あと、ゆっくり……
アタシ、もう体力が……♡」

「わかった」

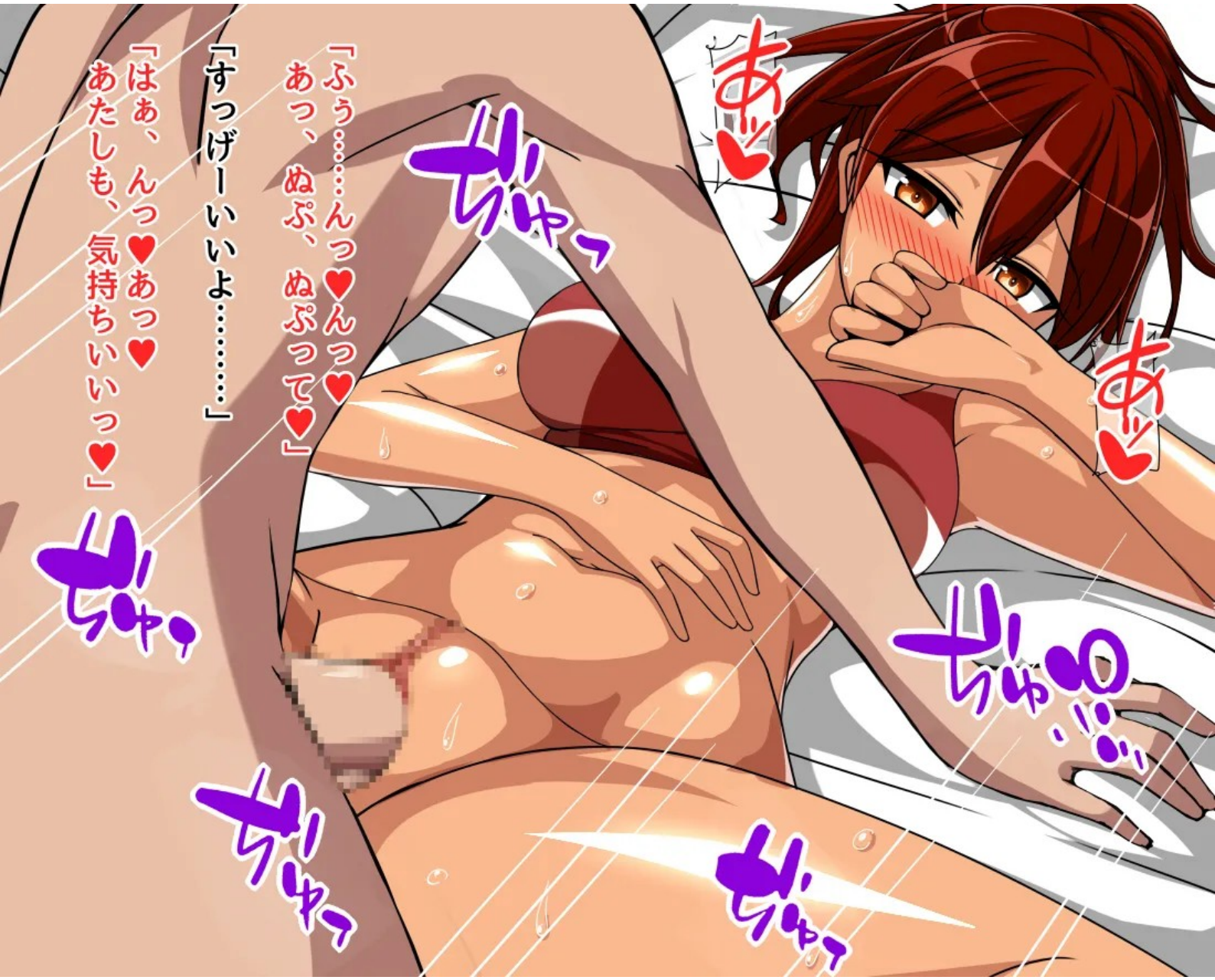
ギィ
ギィ



「あああ……んんっ♡
また、入ってきたあ♡」

「ああ………マンコの中
きゅんきゅん締め付けてきて
チンコ入れられて
喜んでるのがわかるな」

「そ、そういう事言うのやめてよ
恥ずかしい、よお……っ
あ、んんっ、んっ♡んんっ♡」



あッ♡

あッ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「ふう……んっ♡んっ♡
あっ、ぬぷ、ぬぷって♡」

「すっげーいいよ……」

「はあ、んっ♡あっ♡
あたしも、気持ちいいっ♡」

ちゅっ♡



「もうイキそうか？」

「はあ、はあ………
きもちいい………♡♡」

ズ
ズ
ズ

ん
ん

ん
ん
ん

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ



あ♡

あ♡

ほん

ほん

ほん

「うん、んんっ……♡
もういつちやう……♡」

「俺も、もういくから……」

「うんっ、一緒に……っ♡
あ、あ……っ♡あっ♡
いく……っ♡」

ほん






「はあ……はあ、はあ
はあ……はあ……
きもちよかったあ……」

「はあ……はあ……っ」

「はあ……気持ちよかったけど
疲れちゃった……
眠い……」

「俺も……」



俺が暴走してやりすぎてしまったせいで
何か特定の服を着てのエツチは
あまりさせてくれないようになってしまった
まあ、人の頼みを断れない彼女は
頼み込めば、しようがないなあ
うなずいてくれるのだが。



「今日は普通にするよね……？
コスプレはしないよ……？」

「わかってるって、普通にしよう」



「そのまま、脚広げててくれな」

「くう……やっぱ
超恥ずかしい……」

「いいからいいから。
これからもつと
恥ずかしいことするんだから」

かおな……



「う、うん...っ」

「舐めるから」

「あっ.....♡
い、息が.....っ♡」

びん、

ドキ

ドキ



「ひやうう……っ、舌がっ
舐められちゃってるよ……っ」

「美味い」

「んなわけないでしょっ」



あー

あら

「凄いな、舐めても舐めても
愛液が溢れ出てくるぞ」

「そ、そういうこと言うなあ…
ああ、もう………なんで
こんなに気持ちいいのお………」

わ

わ

わ



ダメッ♡

ダメ♡

「あ、も、もういいからっ
十分きもちくなつたからっ♡」

「そろそろイきそうか……っ？」

「そうなのっ♡
顔にかかっちやうからっ♡」

「そんな事気にしなくていい。
いつもは俺のモノを口で
してくれるじゃないか」

「そういう問題じゃ……っ♡
も、もうだめえっ♡」

ぐわんぐわん♡
ぐわんぐわん♡

ぐわん♡

ぐわん♡





「はあ、はあ………」
「気持ちよかったか？」
「うん、お………」

はー!

びびび

びびび

キキキ

はー!

びびび



「ふふん♥」

「この体制好きだよな
俺も好きだけど」

「初めての時もこの格好だったし
あの時の事、思い出すからかな？
じゃあ、いれるから…♥」



「んっ、んっ……んっ♥
中でぴくぴくしてる…でも
すぐに射精しちゃだめだから」

「我慢はしてるんだけど、俺
この体制弱いんだよなあ…
うおっ…あー……」

「いっっぱい感じさせてやるんだから
なるべく長く長く味わってね♥」

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



「あーむり!でるっ」

「あああああああああああっ♡」

ゴッゴッ

パッ

パッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

パッ

パッパッパッ



「んんっ♥はあ、はあっ♥
あ、ああっ……………♥」

「気持ちいいか？」

「うんっ……………んっ♥
ああ……………♥きもちいい……………♥」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



「んっ、んっ……♡
気持ちいだけじゃなくて
すっごく幸せ……」

「え……？ 幸せ……？」

「こうやって…裸になって♡
大好きな人とぴったり
密着して……幸せ……♡」

スゴッ

スゴッ

スゴッ

スゴッ

はっ♡

はっ♡

はっ♡



「俺も嬉しいよ……..
お前の事、好きだからな」

「ふふ……アタシも♡
アタシも大好きだよ♡
世界で一番好き……っ」



ああん♡

あは
ああ
ああ♡♡

ぬちゅ

ずちゅ

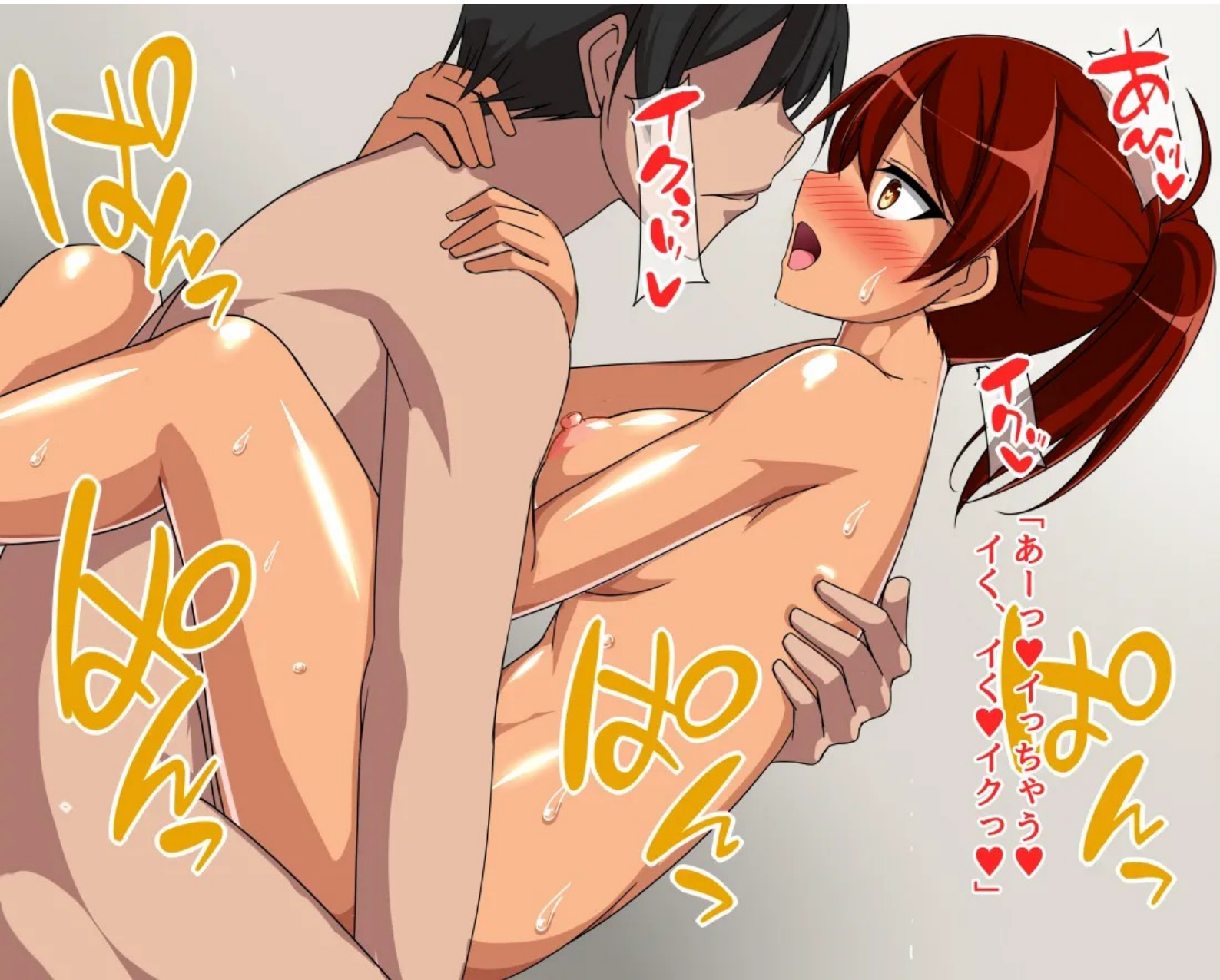
ぬちゅ

ずちゅ

「あ、あつ…あん、あ…♡
も、もうイツちやいそう…
深いのくる…ついく…♡」

「お、俺も…もう」
「ねえ、一緒に…♡
一緒にイこ♡一緒に
一番気持ちよくなる…♡」

「ああ…っ」



ほん

ほん

ほん

ほん

イクっ♡

あ♡

イクっ♡

「あーっ♡♡
イク♡イク♡イクっ♡♡」

「あーっ♡♡
イク♡イク♡イクっ♡♡」





はー!

はー!

ピクッ

ピクッ

ピクッ

「あー……っ♡きもち、よかつたあ、ん、好き、大好きい……っ♡」



「これからも、いっぱいしようね…❤️」

















































































































